

3rd circular

2015年11月10日

\*\*\*\*\*

\* 日本科学者会議東京支部創立50周年記念 \*

\* 第18回東京科学シンポジウム \*

\* \*

\* テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く \*

\* 一知の連鎖を強大にし、戦争勢力を包囲する \*

\* \*

\* 開催日時：2015年11月28日(土)～29日(日) \*

\* 開催場所：拓殖大学・文京キャンパス(文京区小日向3-4-14) \*

\* 主催：日本科学者会議東京支部 \*

\*\*\*\*\*

## 第18回東京科学シンポジウム 3rd Circular 発行にあたって

会員みなさま、協力者みなさま

メインテーマ「理性と希望の平和な時代を拓く一知の連鎖を強大にし、戦争勢力を包囲する」を掲げた第18回東京科学シンポジウムの成功をめざして、実行委員会および関係者の努力により、2つの特別報告、19の分科会、3つの展示、諸活動の多彩なポスターセッションが予定されています。3度目の企画となった「囲碁・シンポジウム杯」はすでに開催され、穂坂繭プロ棋士の指導碁もあり、会内外の愛好者によって会場は熱気に包まれました。定番となっていたプレ企画「平和のためのコンサート」は、今回はポスト企画として準備が進んでいます。

先の第189回通常国会において自公政権は、安保法制(戦争法)が国民の理解を得られぬことを自認しながら強行成立させました。国会の論戦を通じてこの政権が、立憲主義と民主主義の敵対者であり、日本国の政権を担当する資格のないことを明瞭に示しました。その反国民的実像を隠蔽するために2枚舌を使い分け、批判者を恫喝しています。彼らの本質をもっともよく表しているのが反知性、知性へのたぎりたつ憎悪です。

私たちがこのシンポジウムの成功のために設置した一つひとつの分科会・企画が反知性への反撃です。「知の連鎖」の創造です。学問と言論の自由への攻撃そして個人の尊厳への攻撃に対する反撃です。連日国会前でくりひろげられた、国民一人ひとりが主権者として自らの意志で立ちあがった行動、戦後かつてない新しい国民運動、新しい民主主義への連帯です。この歴史的な舞台での知の勝利のために力を尽くしましょう。

全体集会をも兼ねる特別報告は、大日方純夫さん(日本近代史)と植野妙実子さん(憲法)が多忙の中、若手会員の議論と熱意を受け止めてお引き受けくださいました。安保法制(戦争法)「成立」後の緊迫した情勢にふさわしく、「知の連鎖」を武器にして進むべき方向性を明らかにして下さることと思います。

シンポジウムへ向けての諸準備は、ようやく、成功のメドの立った段階にきました。あとひとふんばり、お声をかけあって、テーマにふさわしく充実したシンポジウムとなるように力をあわせましょう。

2015年11月2日 実行委員長 長田好弘

## 1. 特別報告 11月28日午後 13:30～17:00

(1) 大日方純夫 (早稲田大学文学学術院教授、日本近代史)

「戦後70年」における戦争認識・平和認識の課題 一過去・現在・未来のなかで—  
日本社会は「戦後70年」目の夏を、過去の戦争(安倍「戦後70年談話」と、現在・未来の戦争(安全保障関連法の成立強行)とが交錯するなかで迎えた。こうした情勢のなかで、戦後日本の平和主義を内実あるものとして再構築していくためには、戦争認識・平和認識の構造を解明してみることが欠かせない。報告では、戦争体験と戦争認識の関係、戦争認識の進化と逆流の推移、戦争体験の減少と記憶の希薄化の現実などを踏まえながら、安倍談話の意味を歴史学的に検証し、現在の戦争認識・平和認識を未来に向けてひらいていくための課題を探ってみることにしたい。

(2) 植野妙実子 (中央大学教授、憲法)

### 「立憲主義と国家緊急権」

安保法制がその経緯、その内容に問題はあったが、2015年9月にひとまず「成立」した。今後は、憲法改正に重点がおかれると思われる。その際、すでに提示されているように、国家緊急権の新設が浮上するであろう。しかし、国家緊急権の設定は立憲主義の観点からみたとときにどのような問題を提示するのか。国家緊急権の規定を憲法にもっているフランスの状況と比較しながら考える。

## 2. 分科会

### 【1】分科会名：科学・技術の現状批判—日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part 8

設置責任者：長田好弘 (東京支部)、酒井士朗 (武蔵野通研分会)

設置主旨：安倍政権の「戦争できる」国づくりに連動し、宇宙の軍事利用、「防衛装備移転三原則」による武器輸出の解禁、国内外での共同研究の促進、安全保障技術研究推進制度の新設などが進められ、科学・技術の軍事利用とそれへの研究者・技術者の動員が企図とされている。また大震災、火山噴火、原発再稼働、巨大技術の不具合、ハイテク犯罪の続発など、わが国の高度技術社会は多くの重大問題をかかえている。これらに対応して研究者・技術者が果たすべき役割はなにか。そのために必要な諸条件の獲得のためにどう行動するか。これらの交流と連帯を主とした報告・発言の場としたい。

11月29日午後 13:30～17:00

座長：酒井士朗(武蔵野通研分会)

13:30～14:00(1)長田好弘(JSA東京支部科学委員会 委員長)：彼らは研究者をどのようにからめ  
とろうとしてきたか —ホロニック・パス(holonc path)批判を中心に

14:00～14:30(2)酒井士朗(武蔵野通研分会)：軍産学共同の新たな展開と企業の研究者・技術者

14:30～15:00(3)浜田盛久(海洋研究開発機構)：今こそ、軍学共同の進行にストップを！

—軍学共同反対アピール署名への賛同を改めて呼びかけます—

15:00～15:10 <休憩>

15:10～15:40(4)野村康秀(JSA科学・技術政策委員会)：

科学技術基本計画路線20年の帰結と第5期計画策定の問題点

15:40～16:10(5)小滝豊美(JSA国公立試験研究機関問題委員会、茨城支部)：

「国立研究開発法人」のいま

16:10～16:40(6)島田智人(埼玉支部、埼玉農技研セ)：

**埼玉県立研究機関の現状と農業研究について**

16:40～17:10(7)安達雅樹(JSA 国公研委員会、東京支部幹事、運研分会):

**研究機関における研究活動の不正行為—第1回 事件編—****【2】分科会名:IT技術と教育・労働・社会生活 part 4**

設置責任者:酒井士朗(武蔵野通研分会)、矢作英夫(同)

設置主旨:マイナンバーの導入とその利用範囲の拡大が安倍内閣の「成長戦略」と位置づけられている。年金番号の大規模な漏えいで広がった疑問を無視した政府の推進ありきの姿勢が国民の不安を広げている。IT化により、利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、個人情報のIT利用の拡大・監視カメラ・政府機関によるネット監視などへの不安、多発するネット犯罪と情報漏洩、子どもとインターネットをめぐる問題などが重大化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のためのIT技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

**11月28日午前** 10:00～12:30

座長:酒井士朗(武蔵野通研分会)

10:00～10:30(1)新屋達之(前・大宮法科大学院大学): **通信傍受(盗聴)の拡大をめぐる問題点—治安国家・軍事国家化と連動する刑法改正**10:30～11:00(2)酒井士朗(武蔵野通研分会): **マイナンバー制度を考える**

11:00～11:10 &lt;休憩&gt;

10:10～11:40(3)矢作英夫、酒井士朗(武蔵野通研分会):

**マイナンバーと成長戦略、個人情報の利活用の問題**11:40～12:10(4)荒井育恵(大宮開成中学高等学校養護教諭): **中学・高校生はスマホ・SNSをどのように使ったら良いのか—生徒の知りたいニーズから、意見を共有していく取り組み—**

12:10～12:30 総合討論

**【3】分科会名:科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 8—**

設置責任者:長田好弘(東京支部)、松永光司(同)

設置主旨:安倍政権は科学・技術の軍事利用を強め、大学・研究機関を軍事研究に取り込む動きを強めている。また「日本再興戦略」として原発の再稼働とリニア中央新幹線の早期整備を掲げ、福島第一原発事故の収束の見通しもないなか、原発を再稼働させた。さらにリニア中央新幹線計画は必要性・採算性の欠如、電磁波や騒音、トンネル工事の環境影響など多くの問題を放置したまま着工に踏み切った。一方、学校教育法・国立大学法人法「改正」のもとで研究・教育現場の状況悪化は著しい。こうした状況打開のために、科学・技術の側面と同時に政治・社会・経済の視野から諸問題を自由闊達に議論する。

**11月29日午前** 10:00～12:30

座長:松永光司(東京支部)

10:00～10:05 あいさつ

10:10～10:40(1)長田好弘(JSA 東京支部科学委員会委員長):

**知の連鎖を強めて、戦争法の廃止をめざす—知の統一戦線の形成と強化の展望—**

10:40～11:10(2)金子 勝(立正大学名誉教授):

**「第九条」の永久のために—『第九条』の国と『安保』の国』の分岐点に立って—**

11:10～11:20 &lt;休憩&gt;

11:20～11:50(3)渡辺顕治(心理科学研究会):「政策と科学」と「地域住民」—哲学徒の軌跡から—

11:50～12:20(4)増澤誠一(特許庁分会):変わる特許行政・特許事情—変わるものと変わらないもの—

#### **[4]分科会名:日本の食・農と首都圏の役割を考える**

設置責任者:西村一郎(東京支部)

設置主旨:東日本大震災やTPPなどの影響もあり日本の農業は、これまでの資本の論理で食料自給率低下に代表される衰退の道を進むのか、他方で地域に根差して国民の求める安心・安全・安定な食を担うため、後継者も育ち健全に発展するのかの曲がり角にきている。そこで農学や栄養学だけでなく、戦後の我が国の農や食に関わる政策・科学・産業・文化・マスコミなどの動向から総合的に見直し、社会が求める今後の方向性と、その中での首都圏の役割を参加者と一緒に考える。

**11月28日午前** 10:00～12:30

座長:真鍋和裕(関東農産)

10:00～10:05 あいさつ

10:10～10:40(1)本間圭吾(JSA食糧問題研究委員会):TPP協定締結と国家の変革に関する一考察

10:40～11:10(2)立石昌義(埼玉県農民運動連合会、JSA食糧問題研究委員会):

『国際土壌年』とTPP—首都圏農業と農民連関東ブロックの取りくみ—

11:10～11:20 <休憩>

11:20～11:50(3)西村一郎(JSA食糧問題研究委員会):東北の被災地にみる農の現状と課題

11:50～12:20(4)原英二(JSA食糧問題研究委員会):消費者運動の今日的課題(食の安全)

#### **[5]分科会名:今後の電力システム変革で市民が勝ち取るべきものは何か?**

設置責任者:佐川清隆(東大分会)、石綿勇(武蔵野通研分会)

設置主旨:原発事故とその後のエネルギーミックス・電力システム改革の議論は、今後の電気事業の様々な問題を提起しており、対処すべき深刻な問題を多くはらんでいる。本分科会では電力事業の「発電」「送配電」「販売」のそれぞれの段階について整理をし、市民の立場からどのような課題と展望があるのかを議論する。

**11月29日午前** 10:00～12:30

座長:石綿勇(武蔵野通研分会)

10:00～10:10 主催者あいさつ

10:10～10:30(1)歌川学(産総研):電力システム改革を通じた電力の排出削減と消費側の役割

10:30～10:45(2)佐川清隆(東大院生分会):電力システム改革の全体像と課題

10:45～11:05(3)石綿勇(武蔵野通研分会):電力小売事業参入の動向と国民生活への影響を考える

11:05～11:15 <休憩>

11:15～11:35(4)都筑建(PV-net):市民参加による再生可能エネルギーの可能性

11:35～11:55(5)寺澤智広(明大院生分会):東京電力の賠償金と財務状況

11:55～12:30(6)総合討論(この中で火力発電企業に関する発表予定)

#### **[6]分科会名:原発問題を考える文学サロン**

設置責任者:風見梢太郎(作家、東京支部)

設置主旨:福島第一原発の過酷事故から四年半がたちますが、汚染水問題ひとつとっても収束からはほど遠い状態です。また避難生活を送る人々の苦しみは限界にきています。このような状況の下、原発の

再稼働や原発輸出が目論まれていることは全く許し難いことです。この分科会では、最近書かれた原発に関わる文学作品を元に、原発の廃止に向けて文学に何ができるかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

**11月28日午前** 10:00～12:00

座長: 風見梢太郎(武蔵野通研分会)

10:00～10:05 あいさつ

10:10～10:40(1) 風見梢太郎(武蔵野通研分会): 原発問題を描いた最近の文学作品  
— 原発問題を考える文学サロンへの話題提供

10:40～12:00 話題提供に基づく自由討論

### **【7】分科会名: 人間らしい労働を取り戻すために — 司法の場を含む権利を守る闘いの前進 —**

設置責任者: 河上 茂(東京支部)、米田 貢(東京支部)

設置主旨: 企業における労働の場での権利を守る闘いについての最近の前進について討論し、今後を展望する。前回(第17回2013年)の分科会の続編として、JAL 不当解雇・不当労働行為と京王バス過労死事件についての司法の場での闘いにおける具体的な報告から、ILO の労働者の権利を擁護する諸条約と勧告、地労委の救済命令、労災認定訴訟など司法の場を含む人間らしい労働を取り戻すための展望について議論する。

**11月29日(日)** 10:00～16:00

座長: 河上 茂(森 陽子)

10:00～10:05 解題(分科会の歴史と位置付け) 発言者氏名 河上 茂(個人会員)

10:05～10:35(1) 鷲谷 徹(中央大学): **【キーノート報告】**安倍政権の労働政策の特徴と批判の視点  
— 最悪の人権侵害、過労死問題を中心に

10:35～11:05(2) 渡辺 照子(働く女性の全国センター): 派遣労働の現場から見た派遣法改悪の構造と今後の闘い — 女性の派遣労働問題は、なぜ顕在化しないか—

11:05～11:15 <休憩>

11:15～11:30 DVD 上映「JAL 不当解雇撤回闘争」(制作: JAL 不当解雇撤回原告団)

11:30～12:00(3) 堀 浩介(東京南部法律事務所): JAL 不当解雇裁判の法廷闘争で勝ち取ったもの  
— 管財人による争議権介入を断罪した司法 —

12:00～12:30(4) 森 陽子(JAL 不当解雇撤回原告団): JAL 解雇撤回の闘いの現状と展望

12:30～13:30 <昼食休憩>

13:30～14:00(5) 佐々木 仁(京王新労働組合): 京王電鉄バス自殺労災認定闘争の意義  
— その闘いの経過と教訓 —

14:00～14:30(6) 山口 真美(三多摩法律事務所):

京王電鉄バス労働者の自殺労災事件の勝訴報告

14:30～15:00(7) 倉林 浩(郵政産業労働者ユニオン): 日本郵便における均等待遇実現のたたかい  
— 労働契約法20条訴訟の展望と課題 —

15:00～15:15 <休憩>

15:15～16:00 総合討論

### **【8】分科会名: 東京大改造と都市防災**

設置責任者: 中山俊雄・坂巻幸雄・川合将文

設置主旨：中央防災会議が首都直下地震の切迫性(M7クラスの地震が今後30年以内に発生する確率70%程度と推定)を提起したのは、2005年(平成17年)のことである。今、東京は、2020年東京オリンピックにむけて、都市の大改造が始まっている。東京都は、「世界一の都市」への飛躍に向け、「高度な防災都市の実現」を掲げ、基盤整備に2423億円(平27予算:前年比2.23)を計上、一方で、鉄道・不動産など民間企業主導による、大規模都市再開発が進められている。これら東京大改造計画が真に市民の安全・安心に寄与するのであろうか？本分科会ではこの点を検証していきたい。

**11月29日午前** 10:00～12:30

座長:中山俊雄(都立研分会)

10:00～10:10 あいさつ

10:10～10:40(1)土屋十圀(前橋工大名誉教授・中大理工学研究所客員研究員):

2015年9月関東・東北豪雨災害—鬼怒川決壊の要因を考える—

10:40～11:10(2)宮崎高明(国土交通労働組合):

局地的大雨から身を守るために—自らの安全を守ろう—

11:10～11:20 <休憩>

11:20～11:50(3)田畑 健(ガス問題懇談会)、伊野正之(同):

首都直下地震、ガス完全自由化と保安の確保

11:50～12:20(4)野田明宏(LLC 住まい・まちづくりデザインワークス):

密集市街地における防災と建物改修のあり方について

12:20～12:40 総合討論

### **【9】分科会名:「復興」を考える**

設置責任者:林 深雪(東京支部ポスト3.11研究会)、星野 彬(同)

設置主旨:東日本大震災から5年が経ちました。「復興」という言葉によって福島が虚飾され、福島県住民の帰還が強制的に進められようとしています。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、福島フィールドワークの報告、原発事業に関わる業界や制度の実態、再生可能エネルギーの可能性について取り上げます。もう一度福島の現状を知り、これからどうやったら本当の「復興」を遂げることができるのかを一緒に考えていきましょう。

**11月29日(日)午後** 13:30～17:00

座長:林 深雪(post3.11研究会)、星野 彬(東京農工大学院生)

13:30～13:35 あいさつ

13:35～14:15(1)市田太一(東京工業大学):

福島の現状と復興のあり方—福島現地調査で見えてきたこと—

14:15～14:55(2)林 深雪(post3.11研究会):原発労働の現場と「安全性」

14:55～15:05 <休憩>

15:05～15:45(3)寺澤智弘(明治大学分会):原発関連コストの電気料金転嫁の仕組み

15:45～16:25(4)星野 彬(東京農工大学院生):再生可能エネルギーの導入について考える

—特に木質バイオマスエネルギーに焦点を当てて—

16:25～16:30 <休憩>

16:30～17:00 総合討論

### **【10】分科会名:大学院生をめぐる環境と運動の展開——とくに全国大学院生協議会を中心に**

設置責任者:佐藤和宏(東大院生分会)

設置主旨:当分科会では、大学院生をめぐる情勢を検討するために、全国大学院生協議会(全院協)を視点として高等教育を振り返る。第一に、全院協アンケートの総括である。当資料は、全国の大学院生の実態を明らかにしてきた重要な資料であり、この要約を発表する。第二に、全院協関係者による実践からの語りである。ここ10年ほどの間、激動の情勢で何を課題とし、どう実践し、どう総括したのか。事務局経験者をお呼びして議論を行う。

**11月29日午前** 10:00~12:30

座長:佐藤和宏(大学問題研究会)

10:00~10:05 あいさつ

10:10~10:40(1)佐藤克春(JSA 東京支部個人会員):2000年代後半の大学院生の運動について

10:40~11:10(2)柴田和宏(JSA 岐阜支部):2010年代前半の大学院生の運動について

11:10~11:20 <休憩>

11:20~11:50(3)佐藤和宏(大学問題研究会):2012年~2015年の大学院生をめぐる環境と運動  
—大学という視座から

11:50~12:20(4)コーディネーター:柴田和宏(同上):総合討論

## **[11]分科会名:支部活動のいっそうの活性化をめざして**

設置責任者:山川賢次(運研分会)、松永光司(東京支部)

設置主旨:支部活動の基礎は分会活動の確立・活性化にある。また科学懇話会など東京支部の地域活動は、会員の「身近な居場所」、「交流の場」であるばかりでなく、「今ほど国民が科学を必要とし、科学に接近・到達しようとする自覚を強めている時代はかつてなかった」(1st circular)といわれる今日の情勢の下で、その意義は大きくなっている。そして個人会員の比率が増している中、個人会員フィールドワークなどの創意ある活動も重要性を増している。大学、職場、地域における分会活動、個人会員活動、地域活動のリアルな経験を交流し、学び合い、支部活動のいっそうの活性化をめざす場としたい。

**11月29日午後** 13:30~17:00

座長:松永光司(東京支部)、山川賢次(運研分会)

13:30~13:50(1)松永光司(東京支部事務局長):支部活動の活性化—この10年の到達点と教訓

13:50~14:10(2)堀重雄(運研分会):運研分会の紹介 —38年続いた夏の学校—

14:10~14:30(3)増澤誠一(特許庁分会)、小林紀和(同):

特許庁分会の活動について—発足当時から現在まで—

14:30~14:50(4)阪田晴三(武蔵野通研分会事務局長)、石綿勇(武蔵野通研分会)、中野貞彦(同):

戦争法案反対運動から新たな闘いへ—武蔵野通研分会

14:50~15:10(5)佐藤和宏(JSA 東京支部東京大学分会):

JSA 東京大学分会の近年の取組みについて

15:10~15:20 <休憩>

15:20~15:40(6)吉沢壮二郎(明治大学大学院)、赤石秋(立教大学大学院):

東京支部・院生の活動の紹介

15:40~16:00(7)石渡真理子(東京支部「はづきの会」)、池上幸江(同)、衣川清子(同)、

真嶋麻子(同):支部活動活性化へ向けての女性分野の取り組み

16:00~16:20(8)河上茂(個人会員):25周年を目指す個人会員フィールドワーク

—東京支部50周年:知の連鎖のスパイラルを—

16:20～16:40(9)大松重雄(運研分会)、堀 重雄(同)、山川賢次(同):調布科学談話会のあゆみ

16:40～17:00(10)河上 茂(東京支部):地域と市民と連携する京浜地区学習会

—東京支部 50 周年:開かれた知の連鎖を目指す—

## **[12]分科会名:リニア中央新幹線に関する諸問題**

設置責任者:佐伯有真(東京支部)

設置主旨:リニア中央新幹線の建設が9兆3百億円規模で進められようとしている。しかし、そこには経済性・採算性、施工・運用時の安全性(地盤脆弱性、地震対策、トンネル火災)、環境破壊(地下水枯渇・汚染、電磁波・騒音障害)など様々な学問領域にかかわる問題が存在する。そこで本分科会では、各学問領域に関する問題および既存の住民運動について報告を行っていただき総合的な討論を行うことで、リニア新幹線問題を多面的に見直し、問題点をより鮮明にする。

**11月28日午前** 10:00～12:30

座 長:佐伯有真(東京支部)

10:00～10:05 あいさつ

10:05～10:35(1)長田好弘(JSAリニア研究会代表):

JSA リニア中央新幹線問題研究連絡委員会の立ち上げと活動及び展望

10:35～11:05(2)中野貞彦(武蔵野通研分会):超低周波磁界の健康影響問題にどう向き合っていくか

—リニア中央新幹線の磁界の問題に関わって—

11:05～11:15 <休憩>

11:15～11:35(3)佐伯有真(東京支部):リニア新幹線建設予定地における地質と活断層

—特に中央構造線と南アルプス地域について—

11:35～12:05(4)星野 彬(東京院生分会):南信州の美しい村に迫る、JR 東海の魔の手

—東京支部リニア問題研究会 大鹿村 FW 体験記—

12:05～12:35(5)中野渡 旬(リニア新幹線を考える相模原連絡会):

リニア神奈川県駅と新幹線を考える—相模原連絡会のこれまでの活動

## **[13]分科会名:(戦後70年)次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者**

設置責任者:中島明子、石渡真理子

設置主旨:戦後70年を迎える中で、戦争法案を頂点とした安倍内閣による戦争のできる国づくりが急展開で進んできています。併せて安倍政権の「女性が輝く社会」づくりは、「輝く機会」を保障されず、男性以上に競争と差別と偏見の下で苦しんでいる多くの女性研究者がいることが明らかになっています。

分科会ではこうした状況を背景に、以下のことを目的に開催します。

第1に、戦後70年を迎えた現在、学問・研究・教育における平和の視点の重要性を確認すること

第2に、各分野で蓄積してきた、平和とジェンダーに係る研究成果からの教訓を得ること。

第3に、平和な社会を構築する若手研究者・技術者・学生の活動を推進する契機とすること。

**11月29日午前** 10:00～12:30

座 長:石渡真理子 真嶋麻子

10:00～10:05 あいさつ 衣川清子

10:10～10:30(1)中島明子(和洋女子大学):

次世代につなぐ戦争の記憶と平和への希求—戦争遺跡と大学を考える—

10:30～10:50(2)井原 聰(東北大学名誉教授史):



**軍事研究に巻き込まれないために—ここまで来ている軍事研究—**

- 10:50～11:10(3)小林 緑(国立音楽大学名誉教授):クラシック音楽における性差別  
—戦後70年、女性作曲家不在の音楽研究はもはや許されない!—
- 11:10～11:20 <休憩>
- 11:20～11:35(4)横井夏子(東京大学大学院):  
他者の予期の予期と不信—ルーマン信頼論で「戦後70年」のいまを考える—
- 11:35～11:50(5)中島雅登(千葉大学大学院):  
トランスジェンダー女性である私の経験と多様性に関する問題提起
- 11:50～12:05(6)赤石 秋(中央大学院生分会)、真田 遥(立教大学):  
立教大学における平和運動の到達と参加者としての活動への思い
- 12:05～12:20 フロアからの発言と討論
- 12:20～12:30 まとめ 池上幸江

**【14】分科会名:軍学共同の現段階と対抗論理**

設置責任者:多羅尾光徳

設置主旨:2015年度より防衛省がはじめた競争的資金「安全保障技術研究推進制度」により、大学・独法における軍事研究の拡大が懸念される。学問の軍事化を押しとどめるには何が必要か。軍学共同に抵抗する大学・独法における運動の当事者たちを招き、軍学共同の現状を把握し、対抗する論理を構築する。

**11月29日午後** 13:30～17:00

座長:多羅尾光徳(東京農工大学分会・軍学共同反対アピール署名事務局)

13:30～13:35 あいさつ

13:40～14:10(1)河村 豊(東京工業高等専門学校):「軍学共同」の新たな動きとその問題点  
—「安全保障技術研究推進制度」を中心に—

14:10～14:40(2)井原 聡(宮城支部・東北大学名誉教授):

軍事研究と軍学共同—日本のアカデミアの対応を検証する

14:40～15:10(3)小金澤鋼一(東海大学分会):ロボット兵器の現状と迫る危機

15:10～15:20 <休憩>

15:20～15:50(4)遠藤基郎(東京大学職員組合):軍学共同を阻むために—東大職組の取り組みから

15:50～16:20(5)未定(国立天文台職組):軍学共同に反対する国立天文台職組の取り組み(仮)

16:20～17:00 討論

**【15】分科会名:日本の大学改革を考える**

設置責任者:佐久間英俊(中央大学分会)

設置主旨:現在、日本の大学は崩壊の危機に瀕している。学費高騰が教育機会を奪い、競争の蔓延が構成員の疲弊と研究教育の制約・劣化を招いている。ところが、政府・文科省はこうした問題に目を向けず、国際競争力の回復など財界の利益を重視した政策を押しつけるため、問題の深刻化に拍車をかけ、日本の大学改革は迷走している。いま日本の大学はどうなっているのか、何が問題なのか、国民多数が望む大学を作るにはどうすれば良いのか、といった論点について、研究者、組合、自治会など各分野からの報告を受けて考えていきたい。

**11月28日午前** 10:00～12:30

座長:佐久間英俊(中央大学分会)

10:00~10:20(1)松村比奈子(拓殖大学非常勤講師・首都圏大学教非常勤講師組合委員長):

早稲田問題のその後と改正任期法——非常勤講師は任期教員となりうるか——

10:20~10:40(2)長山泰秀(全国大学高専教職員組合):

「国立大学改革」の現状とそこから見える高等教育政策の方向性

10:40~11:00(3)横山敏郎(東京支部、国交研委員会):

東京都を例とした地方公設試験研究機関の現状と問題点について

11:00~11:20(4)齋藤安史(群馬支部、JSA 大学問題委員会):「大学改革」の強制の行方は?

—第5期科学技術基本計画と第3期国立大学法人中期計画—

11:20~11:30 <休憩>

11:30~11:50(5)兵藤友博(東京支部、立命館大学):「市場原理主義」を志向する科学技術基本計画

—「オープンイノベーション」の功罪をめぐって—

11:50~12:10(6)佐久間英俊(中央大学分会):

大学の現状と問題点——大学問題の解決を阻んでいるのは誰か

12:10~12:30(7)総合討論

## **[16]分科会名:日本的流通の再構築——価格競争の疲弊から持続可能へ**

設置責任者:佐久間英俊(中央大学分会)、栗須格(流通政策研究会)

設置主旨:現在、日本の流通は機能不全を起している。バブル崩壊後の四半世紀に低価格競争の影響で利益率が落ち、大手企業が賃下げや流通費用の削減など労働者と中小企業・業者への負担転嫁を強めたため、ワーキングプア、商店街の崩壊、買い物難民の発生など深刻な問題が流通や消費の至る所に表れてきている。本分科会ではいくつかの商品分野を例に日本の流通の実態を考察し、そこで生じている問題点を析出するとともに、持続可能な流通を展望して、市民や中小業者の立場から問題の解決策を提示する。

**11月29日午前** 10:00~12:30

座長:佐久間英俊(中央大学分会)、栗須格(商業・流通政策研究会)

10:00~10:15(1)佐久間英俊(中央大学分会):日本における流通環境の変容

10:15~10:30(2)栗須格(全労連全国一般東京地本 商業・流通政策研究会代表):

規制緩和のなかでの食品酒類業界

10:30~10:45(3)南政芳(全労連全国一般東京地本 ワシントン靴店労組):

大企業優先の経済政策と靴小売店の状況

10:45~11:00(4)杉本時治(全労連全国一般東京地本 アデランスグループ支部):

ウイッグ業界の日本国内の歴史と現状

11:00~11:15(5)小澤丈夫(全労連全国一般東京地本 商業・流通政策研究会):

地域商店街の厳しい現状——労働組合として取り組んだ、地域商店街の事業改善要求アンケートを通じて見えてきた地域商店街や中小零細企業の厳しい現状——

11:15~11:25 <休憩>

11:25~11:40(6)中澤誠(全労連全国一般東京地本、東京中央市場労働組合):

築地市場における農水産仲卸の現状

11:40~11:55(7)栗須格(全労連全国一般東京地本 商業・流通政策研究会代表):

諸外国と日本の流通政策の比較

11:55～12:10(8)梶 哲宏(全労連全国一般東京地本 副委員長):

**大企業による商業・流通・サービス市場支配の弊害と克服の課題**

12:10～12:30(9)総合討論

**【17】分科会名:軍事大国化・グローバル化の批判的検討—その対抗策は何か—**

設置責任者:土肥有理

設置主旨:当分科会では、安倍政権の2つの性格、つまり軍事大国化と新自由主義という視点からの現状分析を行うことを主眼とします。特に、憲法学の視点からの安倍政権批判と日米安保体制との補完性、軍事大国化と経済とのかかわり、沖縄に象徴される国内の抑圧・差別の構造に対する批判的まなざし、国外からの日本の動向に対する評価などに焦点を当てた検討をします。法学、政治学、経済学および文化研究など、複数の領域からの批判的検討の後に、平和と民主主義を軸とする対抗策についても議論をしていきたいと思ひます。

**11月29日午後** 13:30～17:00

座長:土肥有理(明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程)

13:30～13:45 分科会設置の趣旨、GG研究会の目的などの説明

13:45～14:10 第一部(1)土肥有理(明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程):

**安倍政権と抗議運動の海外からの評価について**

14:10～14:35 第一部(2)亀山統一(沖縄支部・JSA 平和問題研究委員会):

**「日米同盟の深化」と沖縄基地問題**

14:35～14:45 <休憩・時間調整>

14:45～15:10 第一部(3)野村康秀(特許庁分会):

**グローバル経済と知的財産権—TPPの知財条項の問題点にも触れて—**

15:10～15:40 討論(コメント10min + 応答、その他質疑応答 20min)

15:40～15:50 休憩・時間調整

15:50～16:15 第二部(4)青水司(市民科学研究所):**憲法と歴史認識、安全保障**

16:15～16:40 第二部(5)大西広(慶應義塾大学):**新自由主義への態度を問わず反国家主義で一致した連合政府をつくることの重要性について**

16:40～17:15 質疑応答、ディスカッション

17:15～17:20 閉会の言葉

**【18】分科会名:日本経済の現状を考える**

設置責任者:工藤昌宏

設置主旨:2012年末に誕生した安倍政権は、日本経済再生を最重要課題に掲げ財政支出、金融緩和、規制緩和を軸にした経済政策、いわゆるアベノミクスを行っている。以来、3年ほどが経過したが日本経済は政府の強気の姿勢とは裏腹に、再生どころか停滞し続けている。

そこで本分科会では、以下の2点を主な課題に取り上げる。第1に、1990年代以降の日本経済の停滞構造とその原因を巡っての報告討論を通じて日本経済の実態解明に迫る。そしてそれを踏まえて、第2に日本経済に及ぼすアベノミクスの影響を考える。

**11月28日午前** 10:00～12:30

座長:工藤昌宏(東京工科大学)

10:00～10:05 あいさつ

10:10～10:40 (1) 浦野明広 (立正大学) : 消費税を含む税制度

10:40～11:10 (2) 工藤昌宏 (東京工科大学) : 日本経済停滞の構造

11:10～12:30 討論

### **【19】分科会名:原発再稼阻止・ゼロ化むけて、いまどのような議論が必要か**

設置者責任者: 俣野景彦、中野貞彦、佐川清隆

置趣旨: 福島第一原発事故から5年目、今なお11万2千人もの住民が県内外での避難生活を強いられている。事故原因の究明はおろか除染事業の遅れや汚染水対策すら有効な手が打てていない。そこにかかわらず原発の再稼働、原発推進政策を強行する政府や財界。これに抗して、原発のない社会を目指す多様な運動が全国的展開を見せ、福井地裁の画期的な判決も生み出された。こうした動きに先立って JSA 東京支部がいち早く原発ゼロを宣言した意義は大きい。原発ゼロ社会を実現していくために、この宣言の意義の再確認とともに実質化がどう進んだのか、これまで JSA はどう取り組んできたのかをふり返って、原発ゼロ社会のために、いまどのような議論と行動が必要なのか、多面的に率直な意見交換をおこないたい。

**11月29日午後** 13:30～17:00

座長: 俣野景彦(中野貞彦、佐川清隆)

13:30～13:35 あいさつ (俣野景彦)

13:40～14:10(1) 青水 司(市民科学研究所): 被ばく労働の倫理問題

14:10～14:40(2) 中野貞彦(武蔵野通研分会): 原発ゼロに向けての JSA 東京支部の活動をふり返る

14:40～15:10(3) 井原 聰(JSA 宮城支部, 東北大学名誉教授):

**原発ゼロ社会実現のための日本科学者会議の役割**

15:10～15:20 <休憩>

15:20～15:50(4) 佐川清隆(東大院生分会): 世界の再生可能エネルギー急伸と原発ゼロのリアリティ

15:50～16:30(5): 総合討論

---

## **3. ポスターセッション (引き続き募集中)**

統括設置責任: 日本科学者会議東京支部事務局

設置趣旨: 東京支部の分会、個人会員・若手院生、女性研究者等の活動概要を広く会内外に紹介する。関東甲信越地区各支部にも呼びかけ、可能な範囲で活動の促進と親睦を図る。

(1) 武蔵野通研分会: 戦争法案反対の闘い: 「安倍政権の「戦争する国」作りに反対するべく活動をしてきて、特に反対集会が連続して行われるようになってからは、分会ののぼり旗を持って積極的に参加してきた。集会の度に「分会つうしん」を発行し、伝えたいことを「廃案ニュース」という「つうしん」の余録を作って配信した。反響が大きく、今後の戦争法廃止のたたかいにつながっていくことの確信になった。「分会つうしん」と「廃案ニュース」を展示する。」

(2) 荒井育恵(キリマンジャロの会・ボランティア事務局員): タンザニアに女子が安心して学べる中学校を: 「タンザニア連合共和国、キリマンジャロの麓にあるマサイの村バンガタに、日本の支援で教育機会に恵まれない女子が安心して勉強できる全寮制の女子中学校(4年生、1学年50名)を開設します。日本には約130年前に来日した外国人が苦勞して創設した多数の女子校があり、今日多くの女性リーダーを輩出しています。今度は途上国の女子教育のために日本が支援をする番に。8月に現地訪問した報告」

## 4. 似顔絵コーナー&『日本の科学者』表紙カット原画展示

設置責任者:若松倫夫(武蔵野通研分会) 両日とも 11:00~17:00

- ・ご希望の方には似顔絵を描きます。(鉛筆スケッチに透明水彩彩色、所要約15分)
- ・代金1000円(実費を引いた全額を本シンポジウム実行委員会へカンパ)
- ・モデルの時間をとれない方には、デジカメで撮影し、写真からも描けます。
- ・『日本の科学者』表紙に用いる予定のカット原画を展示

## 5. 展示(シンポジウム期間中開催)

### 【1】日中友好と歴史認識のための展示

設置責任者:長沼仁(日中友好協会板橋支部、撫順の奇蹟を受け継ぐ会東京支部)

展示内容:14名の元皇軍兵士の加害証言を取り上げた映画「日本鬼子リーベンクイズ」をはじめ、貴重な加害証言映像を紹介する。『歴史を歪めたり、隠したりすることは次の戦争を生み出すことに繋がる。何をされたかではなく、何をしたかという加害の側面に目を向けない限り、戦争の実態、そこにおける人間の脆弱さと恐ろしさ、異常と狂気は見えてはこない。加害の事実を直視し、認識することが、ほんとうの戦争を知ることであり、そこに再び過ちを繰り返さぬための歴史の教訓が存在する』(日本鬼子 松井稔監督インタビューから)

### 【2】日本・キューバ友好の展示

設置責任者:増澤誠一(日本キューバ友好協会)

教室にキューバ革命56年の歴史年表を含む、キューバの歴史を解説した壁新聞、フィデル・カストロの95年初来日の時を含む日本とキューバとの友好運動の写真の展示を行い、土曜(午後)はキューバがテーマの映画上映2本、日曜はミュージシャンによるキューバ音楽のライブを、昼休み(12:30~13:30)と午後行います。ライブ時には、キューバのラム酒を試飲で味わっていただきます。米国との国交回復交渉が進み注目されているキューバに関して知見や文化を多面的に紹介します。

### 【3】日朝友好とアジアの平和のための展示

— 関東大震災時の朝鮮人虐殺犠牲者の追悼と真相究明

設置責任者:赤石英夫(日朝協会東京都連合会・事務局長)

展示内容:①関東大震災時の朝鮮人虐殺に関するパネル展

②関東大震災92年 朝鮮人犠牲者追悼式典(2015年9月1日)のDVD上映

1923年9月1日の関東大震災では、「朝鮮人が井戸に毒を流した」などの流言蜚語が人々の恐怖心をあおり、政府は直ちに軍隊を出動させ、朝鮮人を検束し、軍隊・警察や自警団によって多くの朝鮮人や中国人等が、そして社会主義者はじめ日本人が虐殺されました。この虐殺事件に関して現在に至るまで政府による真相究明も謝罪も行われていません。2003年に日弁連が真相究明と謝罪を政府に勧告しましたが無視されています。事件の50周年の1973年に日朝協会東京都連合会を中心にした追悼碑建立実行委員会によって「関東大震災朝鮮人犠牲者碑」が東京墨田区横網町の都立公園に建立。以来毎年9月1日に追悼碑の前で「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」が日朝協会東京都連合会などの実行委員会によって行われています。今回は追悼式で用いたパネルを展示し、追悼式典の様子をDVDで上映。

## 6. プレ企画イベント

### 【1】東京科学シンポジウム記念囲碁大会

11月1日(日)、武蔵野市の「西久保コミセン」で開催。16人が参加しました。大会は、変則リーグ戦で、好勝負が展開されました。午後からは、日本棋院の穂坂蘭三段による3面打ちの指導碁が始まり、7人が挑戦し、プロ棋士との対局という、めったにない機会を楽しみました。大会終了後の懇親会には穂坂プロも参加され、囲碁談義に花が咲き、大いに盛り上がりました。

## 7. 開催日程・参加費

11月28日(土)	09:30~10:00	受付
	10:00~12:30	分科会
	13:30~17:00	特別報告
	18:00~	懇親会
11月29日(日)	10:00~12:30	分科会
	13:30~17:00	分科会

	参加費	懇親会費
一般	2,000円	3,000円
院生・学生	1,000円	1,000円

\*会員・非会員の区別はありません。

\*参加費には予稿集代を含みます。

## 8. シンポジウム会場&懇親会

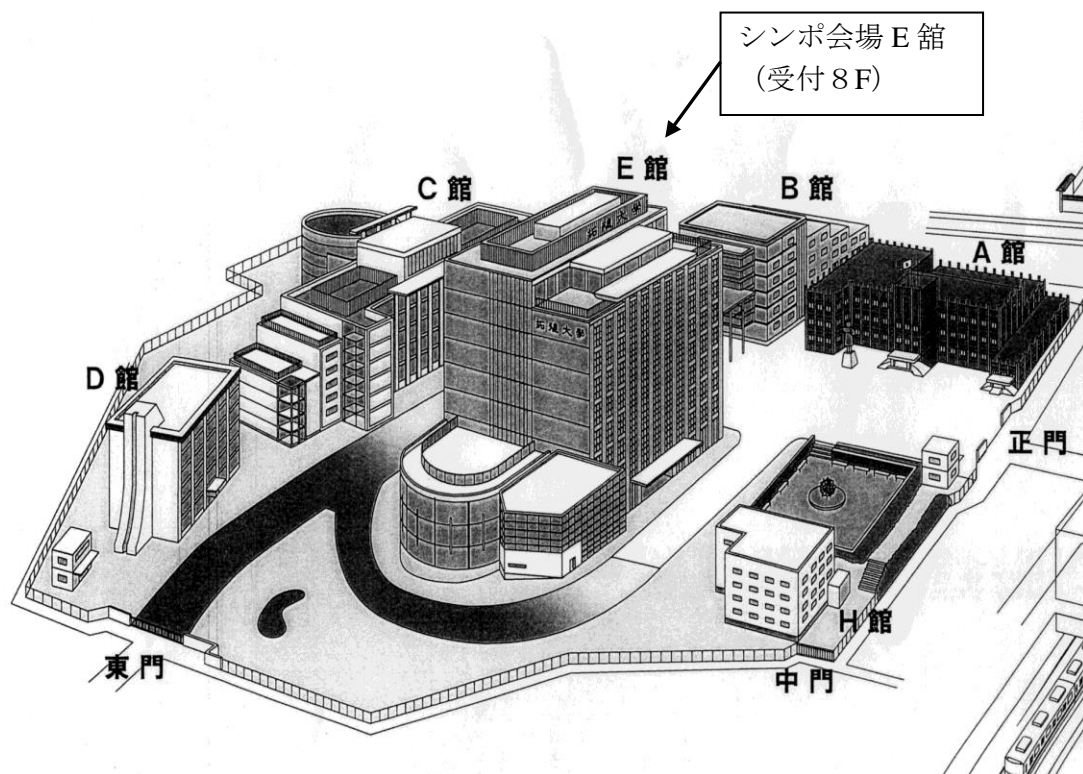
会場：拓殖大学・文京キャンパス E 館

(東京都文京区小日向 3-4-14) 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅下車

懇親会：同上 E 館9F展望ラウンジ、11月28日(土)18時00分より、



拓殖大学（文京キャンパス）への道順



シンポジウム会場の拓殖大学・文京キャンパス配置図



### 第18回東京科学シンポジウム実行委員会

池上幸江(支部代表幹事)、石田周(支部常任幹事)、石山修(支部常任幹事)、石渡眞理子(支部常任幹事)、◎長田好弘(支部代表幹事)、衣川清子(支部常任幹事)、小金澤鋼一(支部常任幹事)、☆佐川清隆(支部常任幹事)、中野貞彦(「日本の科学者」副編集長)、☆真嶋麻子(支部常任幹事)、俣野景彦(支部常任幹事)、○松永光司(支部事務局長)、宮田惟史(支部幹事)、山村延郎(支部幹事)、吉沢壮二郎(支部常任幹事)、米田貢(全国事務局長)

◎：実行委員長、○：事務局長、☆：事務局次長

日本科学者会議東京支部 第18回東京科学シンポジウム実行委員会  
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル 9階  
Tel/Fax : 03-3811-8281 e-mail : 18th-kagaku@jsa-tokyo.jp

## 第18回東京科学シンポジウム 分科会等の日程と会場

会場は全てE館		発表 件数	11月28日(土)		11月29日(日)	
			午前	午後	午前	午後
			10:00~ 12:30	13:30~ 17:00	10:00~ 12:30	13:30~ 17:00
特別報告		2		E406		
分 科 会	1	科学・技術の現状批判	7			E805
	2	IT技術と教育・労働・社会生活	4	E704		
	3	科学・技術サロン	4		E601	
	4	日本の食・農と首都圏の役割を考える	4	E802		
	5	電力システム変革で市民が勝ち取るべきもの	5		E805	
	6	原発問題を考える文学サロン	1	E803		
	7	人間らしい労働を取り戻すために	7		E804	
	8	東京大改造と都市防災	4		E803	
	9	「復興」を考える	4			E704
	10	大学院生をめぐる環境と運動の展開	3		E802	
	11	支部活動のいっそうの活性化をめざして	10			E601
	12	リニア中央新幹線に関する諸問題	5	E705		
	13	次世代につなぐ平和と女性研究者・技術者	6		E705	
	14	軍学共同の現段階と対抗論理	5			E803
	15	日本の大学改革を考える	6	E804		
	16	日本的流通の再構築	8		E704	
	17	軍事大国化・グローバル化の批判的検討	5			E705
	18	日本経済の現状を考える	2	E805		
	19	原発再稼止・ゼロ化むけて	4			E802
展 示	1	日本キューバ友好のための展示		E701		
	2	日中友好と歴史認識のための展示		E702		
	3	日本と朝鮮の友好のための展示		E703		
	4	ポスターセッション・休憩スペース		E801		
実行委員会			E807			
合計		96				
懇親会： 28日18:00～ E9階ラウンジ						
(会場の都合で、一部変更になる場合があります)						